

はくせんぎん

慰霊の夏

第78号 H23年夏お盆

伊豆市 法住寺 発行

お盆の季節になりました。ご先祖さまが帰ってこられ、好物だった手料理などをお供えする。気持ちを通じ合いホッと安らぐ、豊かな風習です。

* 東日本大震災で亡くなった方々も新盆です。ひたすらにお題目をお唱え致します。

* 当山のお盆・施餓鬼会は八月三日（水）、お檀家各家のご先祖さまをご回向し、新盆のご供養をします。

この夏、新盆になる方の中に、太平洋戦争で従軍された方がいます。中国大陸も黄河を超えての従軍でした。

この戦争の戦死者は、戦闘員一七四万人、民間約四十万人。この他に中国大陸はじめ東南アジアを含めた犠牲者は、あまりにも多く推計するしかないのですが、民間人を含める

と一千万人を超えると言われていました。

改めて犠牲者の多さを想い、何でこんなに戦争を拡大したのかと、素朴に疑問を持ちます。軍の司令部は現場を把握できず、コントロールも出来なかったのだと思います。戦地で戦う兵士や民間の人々の苦しみを思うこともなく、滅びるまで戦い続けようとする、何と無責任なことか。

しかし、この平和で豊かな社会の中だからそう思えるのかもしれませんが、いざ戦争となれば理性を失い暴走してしまう、それが戦争なんだと思います。

* 六月二三日は沖繩慰霊の日でした。六六年

前の四月、米軍は沖繩本島に上陸。この戦いは、沖繩人にとっても米軍にとっても、地獄の中の地獄だったと聞

いています。最後には本島最南端の摩文仁の丘で、多くの民間人が海に身を投げ、沖繩戦の犠牲者は二十万人を超えたのです。

* 今年も洋明さんは沖繩慰霊行脚に参加しました。既に梅雨明けした灼熱の中、太鼓をたたきお題目を高唱しての行脚です。今、行脚しているこの道端から何かが響いてくる、今、行脚しているこの道の下から何かが伝わってくる。それは未だに収骨しきれない靈魂の叫びであると直感したのです。それで毎年行くのです、慰霊の祈りをささげたい、その為に。

* 八月は広島、長崎の原爆慰霊、そして終戦慰霊の季節です。祈っても、祈っても、戦後六六年たっても、鎮まらない靈魂は多いと思います。私たちに出来ることは、ひたすら祈ることです。そして日本の平和、世界の平和を願うことです。

* 戦争は絶対にいけません。武装は際限なく拡大していく、しかし武装しないで本当に国を護れるのでしょうか。平和ボケしながらも、私たち一人ひとりが真心で考える、それも酷暑の中の慰霊だと思ふのです。



猛暑の沖繩行脚、お題目で慰霊

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

寄り添って生きる

前回の「はくがんさん」で、島根の大雪の中での助け合いのことを書かせてもらって間もなく、東日本大震災が起きた。多くの、多くの犠牲者を悼む気持ちでいっぱいだが、とりわけ一瞬にして親を亡くした子、子を亡くした親

を思うと泣けてくる。私の家族の中でも洋明さん始め、次男夫婦もヘルメットに長ぐつで、瓦礫の撤去に参じている。ともかく「誰かの助けをしたい」一心で。

*

今ほど、お互いに出来ることを考えて、努力して「支え合おう」という気が、



うつぼ草 野の花ですが、場所を得れば輝きます。

日本に満ち満ちている時はないと思う。全てを失った人々に寄り添って、懸命に生きること

いると思う。また今回の震災では、高台にあったお寺が避難所となっている所が多かった。日蓮宗でも釜石の仙寿院に、本堂・庫裏に五七六名、境内に二四〇名の避難住民が埋め尽くしたと聞く。一日目にはチョコレートと水を分配、二日目には配られたおにぎり一個を三人で食べてしのぎ、四日目から境内のドラム缶で火を焚き、備蓄米でおかゆを炊き一日二食までになったという。

*

今は八四柱のお骨を預かり、これから一〇四柱のお骨を預かるという。そして被災者の生活に合わせて、毎朝九時に朝勤。おごそかに鐘が響き渡って、まだ見つかからない人の早期発見と犠牲者への回向を捧げている。「家族と同じ」と思っ

寿量の祈り

て人々に寄り添って生きる住職と寺族に学びたい。

*

『さて昨年、お話しいただいた「寿量の祈り」の「ありがとうございます」の心は、私共にもわかりやすく、その気持ちを持って過ごしてまいりました。このたび、お陰さまで

「十円貯金」の期限を迎えることができなかったので、二人分の寄付金をお送りさせていただきました。

ところで、三月の東日本の大震災は、私共が経験した 阪神淡路の地震よりも、もっとひどい状況で、とても辛く悲しい思いをしています。被災された方々に少しでも早く心のゆとりが出来ますようにと祈っています。

私たち、普段の生活が出来ることに感謝しつつ、毎日、ありがとうと声に出しております。いつも寿量の会のブログで、お寺の様子など楽しみに見せていただいています。』

寿量の祈り

- 一 大自然 ありがとうございます
- 一 社会の皆さん ありがとうございます
- 一 一ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます

南無妙法蓮華經

ありがとうございます



皆々で良いお話しでした

寿量の塔は大変好評で「ここなら安らぐ」と、多くのご利用とご予約

を頂いています。またホームページは月に千件以上のアクセスがあり、日々のブログを楽しみに読んで下さっています。

ありがとうございます

トピックス

寿量の塔に赤、白ヤシオ

寿量の塔のご縁で、素敵な樹木が寄贈されました。

寿量の塔の両脇に、赤ヤシオ、白ヤシオ、天城シヤクナゲ。駐車場に土佐ミズキ、中庭に大山レンゲ、三つ葉ツツジ等々です。来年の春の開花が楽しみです。

また寿量の杜には春先に紅葉とサルスベリを十本ずつ植え、葉を茂らせ始めました。

夏の境内整備

この夏は清水②のご奉仕と、何時もの十二日講の皆さんによる作業でした。

夏は除草と草取りで、山門周辺から大京道路まで清々しくなりました。良いお盆を迎えることができます。

秋の作業は元村③の皆さんのご奉仕です。

東日本大震災募金

大震災救援募金箱(本堂)は、お盆が終わったら役員さんと開けます。多くの皆さんのご協力に感謝いたします。

この募金は日蓮宗に送り、被災の寺院や檀家さんに手渡し、また赤十字を通して多くの被災者に届けられています。なお日蓮宗としての募金額は、五月初めに二億円を超えました。

お知らせ

お盆のお施餓鬼

・日時 八月三日(水)午後三時
檀家各家ご先祖さまの回向をしますので、各家からのご焼香をお願いします。

寺子屋

・期日 八月七、八日(日、月)
・自分で竹をとり竿を作り、餌を作って、近くの川で釣りに挑戦します。

伊豆連合大題目

田方地区の檀家さんが集い、お題目をお唱

えし、励まし合って信仰を深めいくお講です。近隣のお寺さんにお詣りし、お題目をあげることは意義あることです。

・日時 九月四日午後一時〜四時

・会場 大仁浮橋 本道寺

・会費 五百円 ・申込み締切り 八月十日

池上お会式団参

・十月十二日(水)

白龍会が万灯に参加します。

七面山登詣団参

八月末を予定してましたが、地域防災の日と重なったため秋に変更します。若い方々もご参加下さい。

・十一月五、六日(土、日)

いずれのお知らせも詳しくは、ホームページをご覧ください。



洋明さんのおはなし

七面山。末法の世の中で、お題目を唱える皆さんを守護してくださる七面大明神が鎮座される霊山です。標高約二千メートル、五

十丁の道のり、『信心』で登る霊山です。法住寺では本堂・鬼子母尊神の右隣のお厨子にお祀りしています。

＊

先日、子供たちと妻の家族で七面山へ日帰りで参詣して来ました。当日長男が熱をだし、普段なら諦めると思うのですが、「大丈夫。絶対に七面大明神が登らせてくれる」という思いが不思議と強く、さらには体育会系出身の私、(氣力次第。行ける所まで行ってみよ)と、皆で登り始めました。

十三丁目。不思議と息子の熱も下がり、子供たちは元気に登って行きます。遅れをとっているのは妻。後で聞くと「正直登れないと思

った。七面大明神に(子供達を宜しくお願います。そして自分も・・・)と、心でお題目を唱えながら、無心になって登ったよ。ほかの事を考える暇は正直なかったよ。」と。

途中十五丁目付近で、子供たちが腹痛を訴えましたが、二三丁目の休憩所まではと、家族一丸となり登っていきました。

＊

本当の試練はこの後でした。再び登り始めたのですが、しばらくして息子がまた腹痛。次の休憩所は三六丁目とまだまだ先は長く、しかし途中で立ち止りそうなほど辛そうな様子。私は、(何とか家族全員が無事にお詣り出来ますように)と、一心にひたすらお題目。息子も苦しそうに、涙をこらえながら、決して足を止めずにお題目を小さな声で唱えて登っていきます。途中何度もおぶって行こうかとも思いましたが、これも本人の普段では経験出来ないことであり、そこから我慢やがんばれる自分を発見して欲しいと願いながら、行ける所までは行かせようと一歩に一歩一歩のお題目。しかしあまりの腹痛に、ついに息子の足が止まりました。(もう限界か)と思った私は次の休憩所まで、息子をおぶって登りました。背負うと我慢し

ていたのでしょう、頬から涙が伝っていました。七面大明神が息子に、自分はこんなに来るんだと、気付かせて下さったのでしょうか。

＊

娘は、一言も弱音を言わずに家族を笑顔で励ましてくれました。その笑顔が周りを元気にすることを教わったのでしよう。

その後、無事に五十丁の敬慎院に到着。ご開帳の際には、(本当に、本当に有難うございました。)と、家族四人が無事に登れたことにひたすらに感謝しました。七面大明神のお顔を拝すると、『よくお詣りに来ました。家族の、そして一人一人の修行でしたね』とおっしゃられているように感じました。

＊

今回のお詣りは、それぞれが自分と向かい合い、本当に良い修行をさせて頂いたと感じました。また、家族がお互いを思い合ったからこそ登れたと、改めてその絆にも気づかされました。まさに家族で七面大明神に呼ばれたんだと思います。無我夢中になったとき、一心にお唱えしたお題目に支えられました。この貴重な体験を今度は、壇信徒の皆様と出来ませう、秋には七面山団参を行います。皆さまと良い修行が出来ますよう参加をお待ちしております。

御志納金「四月〜七月」

五十万円 三島市 佐藤恵美子殿 尊父(林秀殿)葬儀
五十万円 清水 山下武志殿 尊父葬儀
二十万円 横浜市 伊東孝純殿 尊母葬儀
十万円 三島市 三田恭司殿 尊祖父五十回忌
十万円 清水 林やす子殿 夫君十三回忌
十万円 清水 山下悦子殿 尊母三回忌
十万円 川崎市 山下泰殿 尊父十三回忌
十万円 匿名 寿量の塔納骨儀
十万円 東京 瓜島洋次殿 本堂仏前結婚式
五万円 横浜市 山下敏征殿 墓碑移転